

ラオスの教員養成校における理科教育改善活動と課題

○跡部紘三, 村田勝夫, 佐藤勝幸

ATOBE Kozo, MURATA Katsuo, SATO Katsuyuki

鳴門教育大学学校教育学部

【キーワード】 ラオス, 教員養成校(TTS/TTC), 理科教育, 授業実践

1. はじめに

ラオスでは現在, 「国家成長・貧困削減戦略(NGPES)」が「Education for All」(全ての子供達に教育を)等を掲げて, その目標に向けて進行中である。「国連開発計画」(UNDP)によると15歳以上の識字率が65.6%(2001), 初等(義務)教育の純就学率が81%(2000-2001)である。不完全校も多く卒業率は50%近くという推定もある。周辺諸国と比べても独特の厳しい事情を抱えながらもラオスは教育改善を進めている。国家の実施計画では教員の養成訓練を優先課題としている。本学は数年間にわたる研修会・調査結果を基に教育省, JICAと協力して教員養成校教員を対象とした教育改善計画を策定し, 2004年より新プロジェクト(SMATT)を実施している。理科教育についての改善活動と課題について報告する。

2. 教員養成校と理科教育

小学校と中学校の就学年数はそれぞれ, 5年と3年である。これ等の教員養成機関はラオス国内に初等教員養成学校(Teacher Training School)としてTTSが3校, 小中学校教員を養成する教員養成短期大学(Teacher Training College)としてTTCが5校ある。この他, 芸術と体育教員養成校が各1校ある。これ等の養成校は90年代にADB(アジア開発銀行), 他の援助機関に

より, 整備されてきたものである。在校生と教員数はそれぞれ, 約7300名と600名である。このうち140名が理数科研修の対象になる。教育施設の充実に追求しつつも, 国際, 外国機関の90年代の教育設備・教材供与にも係らず, これ等のものが理科教育で有効に使われていないため, 最近では教員の資質向上に力を入れつつある。

3. 理数科教員養成プロジェクト(SMATT)

このプロジェクトは, 教員養成(プレサーストレーニング)に携わるTTS, TTCの教員とプレサースに関する機関の職員の資質向上を目指すものである。これは以下の三つの活動内容を相互に結びつけたものになっている。1) 国別研修: 毎年, 本学の理科分野で7名程度の研修生(TIJ)を物理, 化学, 生物コースに分けて受入れ, 研修している。この間, ラオスで指導の困難なものを課題として取りあげたり, この理科指導(案)の作成, 教材開発等を行う。2) 全国ワークショップ(WS): 国内で毎年, 約80名を対象にTIJが中心となり, 国別で学んだ知識の普及と指導案の検討, 改訂, 小・中学校での実践授業を行う。3) 国内研修: WSに参加していない教員(約60名)に対して完成した指導書を基にTIJが計画を立案し, 実施する。ここでは, 2004年8月に実施した全国WSでの理科分野の研修の内容と課題を報告する。